

## 深田の五大力さん（深田）

深田の五大力さんは、広い田んぼの中の、小さな森の中にまつられています。

普通の神さまや仏さまと違って、お社はありません。石垣で囲まれたその中に高さ一・二メートル、幅三十センチ、厚さ六センチの板に黒・黄・緑色の絵の具で五大力さんが描かれています。

むかし、近くの村に体の弱い若者が住んでいました。病気で寝こむ日が多いので、母親はずいぶんと心配しておりました。

ある年の二月十三日。その日は五大力さんの春の大祭です。母親は息子を連れてお参りをしました。

ほら貝を「ブオー」と吹き鳴らし、紫や黄色の衣をまとった山伏たちがお経を唱える中、白い煙をあげて大護摩が燃え上がっていました。お参りしている人たちはその煙を追いかけて、体に浴びようとしています。無病息災のご利益を受けようというのです。若者も体いっばいに煙を受けまし

た。

さらに、火の勢いが呪文で鎮められると、火渡りが始まりました。はだして炭の上をじかじかと渡るのです。若者も必死で火渡りに加わったのです。

すると、なんとふしぎなことでしょう。若者はしだいに元気になっていきました。若者は風邪一つひかない強い体になったということです。

またあるとき、灘の造り酒屋さんが何度作り直してもよいお酒ができないので、悩みながら、あちこち祈願をしておりました。

深田村に近づいたとき、白い煙が森の方から立ち昇っています。「なんの煙だろう」と近づくと、五大力さんで大護摩がたかっていたのでした。

よいお酒ができるようにとお願いし、煙を体いっばい浴びました。白い煙は身も心も洗ってくれるようでした。

お参りをすませて帰ろうとした、まさにそのとき。北風とともに雪が舞ってきたのです。でも少しも寒くありませんでした。造り酒屋さんはすがすがしい気持ちになりました。

家に帰り着いて酒蔵に入ると、いつになくよいお酒のにおいがただよっていました。試しに飲んでみたら、本当によいお酒になっています。これは、五大力のご利益にちがいない。造り酒屋さんは、たいへんありがたく思いました。それからというもの、その造り酒屋さんでは、味も香りもよいお酒ができるようになったということです。

この五大力さんは、いずれも力の強い菩薩さまなのです。その強い力で、襲ってくる悪魔や病気を追い払ってくれる菩薩さまとしても信じられています。

というのも、江戸時代の終わりごろ、五大力さんのお姿を描いた板や石垣がこわされたことがありました。その後、悪事に関係したものは、けがをしたり、病気になるようになりましたので、五大力さんがお怒りになったのではないかと言われました。

そのため、この五大力さんの祈禱札を玄関などの入り口にはりつけておくと悪いものが入らないと言われています。

こうした話しが広がり、深田村の人々はもちろん、信心

する人や近くの人々も二月の春の大祭には、今までよりも多くの人がお参りをするようになったということです。そして、大護摩の煙を浴びたり、火渡りをしたりして一年間の無病息災を祈るのでした。

